

特別研究報告書

障害幼児の発達診断と教育的処遇に関する研究

目 次

I 研究経過

障害幼児の発達診断と教育的処遇に関する研究

—研究の目的・方法・経過—	山片 正昭	1
---------------	-------	---

II 事例報告

母親が就業していて定期的な来談が難しく保育園でのかかわりが発達援助の中心となったA事例	馬岡 清人・安好 博光	3
初期には熱心に来談したが集団処遇機関の選択にかかわって転居し相談が中断したB事例	太田 俊己・馬岡 清人	6
生後7か月のときに来談し、途中から事例Fと教育相談を共にし、就学期を迎えたC事例	緒方登士雄・太田 俊己・緒方 明子	9
染色体異常(9pトリソミー)があるが比較的順調な発達を示し通常の学級に就学したD事例	馬岡 清人・廣瀬 淑子	12
発達の節目を順調にたどったが感情表出に課題を残したE事例	廣瀬 淑子	15
早期から種々の養育相談を活用し、同じダウン症児をもつ家庭同士		
の連携も継続したF児の事例	太田 俊己・緒方登士雄	18
生後4か月のときに来談し、就学先に通常の学級を希望しているG事例	緒方登士雄	21
ダウン症としては中等度の発達水準を示し地域の保育園から特殊学級へ入学したH事例	久田 信行・滝坂 信一	24
早期より通園施設で指導を受け、地域の保育園に処遇されて、就学		
を迎えているダウン症男児Iの事例	平井 保・寺山千代子	27
保護者と相談関係が結べないままに終了したJ事例	小林 倫代・廣瀬 淑子	30
早期より運動・言葉を中心に指導し、地域の私立幼稚園に通園、就学		
を迎えているダウン症男児Kの事例	寺山千代子・山片 正昭	33

生後6か月まで入院後、家庭生活を始めて間もなくから、教育相談を開始したL事例	滝坂 信一・山片 正昭	36
3歳未満に発語し、就学時には知的に標準の範囲まで達しながら、シンボル機能がやや弱い男児Mの事例	山片 正昭・馬岡 清人	39
3歳半まで順調に経過したが、転居・保育園入園後病気がちで十分な処遇が行えなかったダウン症女児Nの事例	山片 正昭・馬岡 清人	42
III 事例の相談経過のまとめ		45
IV 個人研究課題の報告		
障害幼児の聴力域値測定 —ダウン症児の長期間観察—	菅原 廣一	57
障害幼児の発達援助における乳幼児精神発達質問紙の利用に関する臨床的考察	馬岡 清人	63
運動障害に対する視点 —膝立ち位・片膝立ち位・立位—	安好 博光	69
記号論による遊具の系列化の試み	山片 正昭	73
障害幼児における社会的相互交渉の発達的変容 —F児の保育場面における変容についての—考察—	太田 俊己・緒方登士雄	83
保育園における障害幼児の個別指導	武井 昭代	93
早期教育相談の諸要因	滝坂 信一	101
V 研究経過を省みて		
障害幼児の早期からの発達診断・援助の課題	山片 正昭	107